

- 梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となり、熊本県で2回線状降水帯が発生。この影響で、各地で土砂崩れや浸水等の被害が発生した。
- 九州地方整備局と福岡管区气象台、鹿児島地方气象台は合同会見を行い、広く一般の方に注意喚起を実施した。
- 九州地方整備局では、九州各県の49市町村とホットラインを構築し、被害状況・必要な支援体制等について、情報交換しながら防災対応にあたった。
- 特に被害の大きかった大分県庁(由布市の土砂災害対応)、熊本県庁・益城町(山都町の落橋対応、益城町の浸水対応)、久留米市・大刀洗町(浸水対応)については、リエゾン(情報連絡員)を派遣するとともに、防災ヘリ はるかぜ号による広域の被災状況調査し、映像配信・提供、排水ポンプ車の派遣を行うなど、自治体支援を実施した。
- 山都町の落橋箇所へは、国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人 土木研究所の専門家及び九州地方整備局のTEC-FORCEを派遣(7/6)し、被災状況調査・今後の復旧等に関するアドバイスなどの自治体支援を実施した。

■リエゾンによる情報支援

○リエゾンによる被災情報収集や支援ニーズの聞き取り、支援内容の調整等を実施



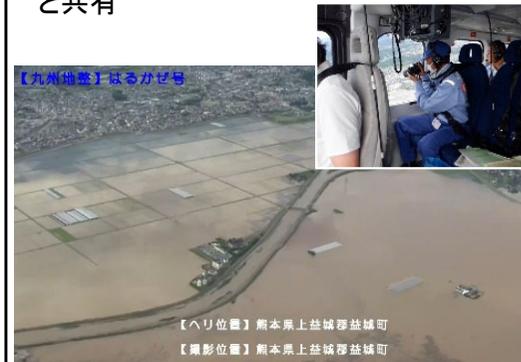
情報共有会議への参加(熊本県庁)



支援ニーズ等の聞き取り(熊本県益城町)

■防災ヘリによる広域被災調査

○上空から浸水箇所や土砂災害等の広域被災状況調査を行い、調査映像を自治体と共有



浸水箇所等の状況調査状況



調査映像をリアルタイム共有(熊本県庁)

■一般の方へ災害に対する注意喚起

○福岡管区气象台との合同会見やTVニュース中継への対応



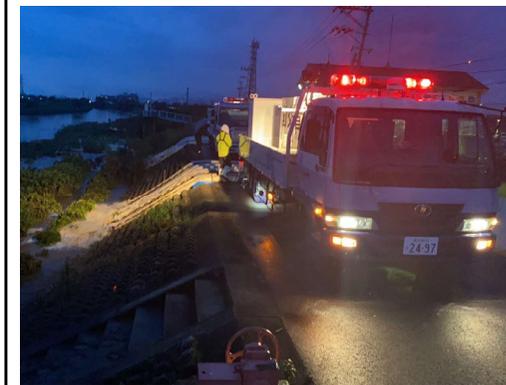
6/30合同記者会見の実施(福岡管区气象台)



7/3 NHKのTV中継対応(九州地方整備局)

■災害対策用機械による支援活動

○湛水排除のため排水ポンプ車を貸出



排水ポンプ車による排水活動(熊本県益城町)

■自治体管理の公共施設の被災状況調査

○県管理橋梁の被災状況調査を実施



県管理橋梁の被災状況調査(熊本県山都町)